



ジャン・リコ・リードー 議長



エンリコ・キヤアララ氏

ISO/TC224「下水道に関するサービス活動の標準化」の最終総会が東京で開催され、最終決議案が承認され、いよいよ国際規格の発行を待つこととなった。東京総会(11月21日、東京都水道局研修開発センターで開催)には、今回の規格制定に関わった議長および各コンソルシアムが勢揃い。そこで彼らに「ISO/TC224の制定までの歩みの中で果たした、日本の貢献はあったのか、今後の日本に対する期待はなにか」を、それぞれの責任者へ単独インタビューを試みた。(筆者は第1回パリ総会から第5回のベルリン総会までの5年間WG3の日本側部長として出席、今回来日した主要メンバーとは敬意)

まずもって今回の最終総会が日本で開催されたことに、日本側の関係者に深く感謝を申し上げたい。会場から見た富士山も素晴らしい。日本の貢献について私の印象を述べると、第1回パリ総会から日本代表団の積極的な活動である。WG1からWG4まで、すべてのワーキンググループに代表を送り込みで来たのは日本だけであった。しかも単に参加するだけでなく、常に前回の決議案を精査し、英文での事前資料を提出している。総会を重なる度に日本の上下水道の素晴らしさを認識するようになった。グローバル化を迎え日本はISO以外にも、もともと上下水道の情報発信(英文)を続けることが必要であろう。そうす

れば日本の上下水道の素晴らしさが世界中で認識されることになる。とくにアジア諸国に対し指導的立場になれるであろう。今後の日本に対しお願いしたいことは、今回の東京総会でISO規格が発行されることになったが、これが最終ではない。東京総会での決議のようにより1年までに①今回の規格の見直し、普及状況の確認、②途上国へのISOの普及活動支援、③アセットマネジメント(資産管理)、および④ライセンス(危機)管理のガイドラインの原案を作ることになっている。ここでも日本の中心的な活動を期待している。さらにISO/TC224の日本国内における普及活動にも敬意を表したい。すでに日本国内においてISO/TC224の精神を織り込んだ、上下水道のサービスのガイドラインが発行され、多くの事業体で活用されていること

を聞いた。素晴らしいことである。また本日(11月22日)の公開セミナーには200人を越える上下水道の関係者が集まり、私の話を熱心に聞いていただき、日本でのISO/TC224に対する高まりと熱気が感じられた。最後に今までの日本代表団のISO制定に対する大きな貢献、そして



今回、東京総会を支えてくれた東京都水道局の多くのスタッフに対し、議長として深く感謝する。

WG2(消費者サービス)のコンソルシアムのエンリコ・キアララ教授(スペイン)

日本で総会が開催出来た

ことは素晴らしい。私は、ISO/TC224(業務指標)と呼ばれていると思うが、最初は、日本はこのPTに反対かと思っていたが、むしろ

ISO/TC224制定における日本の貢献

グローバルウォータージャパン 吉村 和就

積極的にPTを提案してきた。日本国内では、すでにPTが制定され、使われていることを理解している。PTは作る事が目



タンカン・エリンン氏



カール・ロウワー氏

的ではなく、データを積み上げ活用し目標を決め経費効率を上げることである。つまりベンチマークである。ベンチマークについては日本の上下水道関係者と数多く議論してきた、感謝している。日本の国際貢献は、日本国内で得られたノウハウをアジア周辺国に、そのノウハウを移転することはないかと思う。また今日の公開セミナーでは、参加者の熱心な取り組みが感じられた。「セミナーとは顧客のニーズを汲み取るところから始まる。私がセミナーの環としてセミナー会場を歩き回って説明したので寝る人がいなかったのでは…」。

今後も日本のISO/TC 224に対する積極的な取り組みに期待する。また2008年3月に都市インフラに関する業務指標の国際会議をスペイン・バレンシアで開催するので、ぜひ参加して欲しい。最後に日本での総会ができたことを感謝する。

WG3 (下水道部門)のタンカン・エリンン氏 (カナダ)

今回東京で最終総会が来たことを感謝いたします。日本の貢献について、日本の水道関係者はJWW

A吉井さん、榎子さん、吉村さんを中心に、多くの提案をしてくれたことに感謝する。もちろんその内容の一部は、ISO本文にも引用されている。また日本は総会だけではなく、世界各地で行われた分科会でも積極的に意見を提案してくれたことに感謝している。とくに自然災害に関する業務指標の提案は、スマトラ沖地震の直後の提案であったので、参加国の関心が深かったことを覚えている。毎回、日本から沢山の討議資料が提案され、WG3の議長として非常に助かった。(皆さんは提案書を日本語から英語、総会後は英語から日本語訳で苦労したでしょう)

また世界で初めて「日本の水道事業ガイドライン」は、バレンシアの会議でISOの附属資料として登録されている。これからガイドラインを作る諸国にとり非常に参考になると思う。

本日、パネル代表の北海道大学・眞柄教授の基調講演を聞いて、日本の水道の素晴らしさと地震に対する対策の重要性を感じた。先進国は施設の老朽化と資金難に苦しんでいるが、眞柄教授から提案された「水道事業のモニタリングと監査制度の標準化」は大変重要であり、グローバルな課題である。

る。ぜひ、その成果を次回のアルゼンチン総会で公表して欲しい。今後とも持続的な日本の国際貢献を期待する。

WG4 (下水道部門)のカール・ロウワー氏 (オーストリア)

前回の総会で「フランスからパリで最終総会を…」と提案され、私は絶対反対だった。最終総会を日本で出来たことを嬉しく思う。多くの加盟国が日本開催を支持したのは、今までの日本代表団の取り組みが高く評価されたためと思う。日本のISO制定に関する貢献は、下水の果たす役割のスコープ(範囲)に対する

提案や下水システムにおけるローの考えなどの提案があり、その一部はすでにISO本文にも引用されている。日本の下水代表団、いつも大人数でWG4会議を支えてくれたことに深く感謝する。

今後の日本に期待することは、下水処理は、その国の事情や規模により大きく差がある。日本は下水という集中型を考えているように思うが、アジア諸国を見ると大都市を除き、小型分散にならざるを得ない。その辺でアジア諸国への指導的な立場を期待したい。しかしホトランドや旧共産圏は私の持ち分なので来ないように……(笑)

本日の公開セミナーで多くの日本人関係者に直接語りかけることが出来たことを感謝する。WG4(下水道)で討議された地域特性を考えたい下水処理のあり方やセットマネジメントの重要性を理解してもらえたと思う。もし判らな

かった人はぜひグリーンに来て欲しい、カンカールではなく、キーツアルトが待っている。IWA(国際水協会)総会も来年はグリーンだ。最後に今回の東京総会を支えてくれた多くの関係者に深く敬意を表したい。

あとがき

各責任者から語られた「ISO制定における日本の貢献」、これは日本提案が本文に織り込まれ、さらに日本の上下水道ガイドラインが附属書に登録されるなど揺るぎないものである。東京総会開催は今までの日本の取り組みが高く評価された結果である。しかし彼らが日本に期待していることの中に、必ずアジアへの貢献が挙げられている。振り返って日本国内の上下水道事業の現状を見ると予算の削減や、公取問題で元気のなさが目立っており、そのうえISO/TC 224は重荷で国内問題だとの感が強いが、一方諸外国の責任者から見ると「日本がISO制定に積極的に参画してきたのは、当然アジア市場を視野に入れた活動」と見られていることだ。彼らにとって上下水道事業は、当然国際的な潮流のなかで活動するものと認識されていることだ。

日本は、この国際的な潮流をうまく活用し、日本国内での上下水道事業強化はもちろんだこと、国際的に高く評価された日本のノウハウを持って近隣アジア諸国への貢献をめざすべきであろう。



公開セミナー参加者